

## 1. 第62回秋期特別総会 終了

標記総会が開催され、盛会にて終了いたしました。

会期：平成28年11月10日(木)～11日(金)

会場：金沢市文化ホール

会長：金沢医科大学医学部臨床病理学 野島 孝之

尚、学術集会、社員総会、理事会等の詳細につきましては、今後の会報、HP等にて順次ご報告いたします。

## 2. 平成29年度新学術評議員の推薦について

下記の本学会学術評議員資格に照らし合わせて、学術評議員として適当と思われる会員がありましたら、別紙の書式を用いてその候補者の所属機関、職名、略歴並びに業績目録をそえ、推薦者2名連署(ともに推薦時に学術評議員であること)のうえ、平成29年1月31日(消印有効)までに学会事務局宛、書留等にてお送り下さい(申請書/推薦書は下記よりダウンロードして下さい)。

参照HP:

<http://pathology.or.jp/news/whats/H29gakuhyou.html>

各位よりご推薦のありました候補者に付きましては、資格審査委員会による審査を経て、理事会にて学術評議員として適当であるかを審議し、認められた候補者を春期総会時に開催される学会総会にて承認を受けることとなります。

### 学術評議員資格

病理研究歴満7年以上、会員歴5年以上の会員で以下の条件の一つを満たすもの。初期臨床研修期間は含めることができませんので注意してください。

- 病理学(学際分野を含む)に関する原著論文(英語論文)3編以上で、少なくとも1編の筆頭著者である者。
- 病理専門医あるいは口腔病理専門医資格取得者で論文発表の筆頭著者1編以上である者。
- 入会歴5年以上を満たさないが、傑出した業績を上げていると資格審査委員会で認めた者。

- 注：1) 論文は査読のある雑誌に掲載されていること。  
2) 病理専門医あるいは口腔病理専門医の論文は症例報告を含めることができる。  
3) 論文については、5編以内の別刷各1部(コピー可)を提出すること。

### 提出書類

#### 1. 学術評議員申請書/推薦書式

参照HP:

<http://pathology.or.jp/news/H29gakuhyou.doc>

専門領域キーワード一覧表(ダウンロード)

参照HP:

<http://pathology.or.jp/news/keyword.pdf>

※ともに推薦時に学術評議員である推薦者2名の直筆署名があること。

※功労会員・名誉会員・一般会員は推薦者になれません。

#### 2. 代表的な自著論文の別刷りのコピー 5編以内。

※上記ABCの資格のうち、候補者が必要とされる業績をみたしていることが証明できる分を提出すること。

### 受付期限

平成29年1月31日(火)消印有効

### 提出先・問合せ先

〒113-0034 東京都文京区湯島1-2-5

聖堂前ビル7階

一般社団法人日本病理学会 学術評議員推薦受付係

E-mail: [jsp-admin@umin.ac.jp](mailto:jsp-admin@umin.ac.jp)

TEL: 03-6206-9070

### 書類受け取りに際して

- ・簡易書留もしくはそれに準ずる形でお送り下さい。
- ・書類の受領確認連絡をメールにて順次差し上げますので、申請書にはメールアドレスを必ずご記入下さい(誤送信を防ぐ為、はっきりと読みやすい字でお願いいたします)。

なお、発送後10日を過ぎても受領連絡の無い場合は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。メールアドレス未記入の場合、受領確認のご連絡は致しかねますので予めご了承ください。

### 参考：学術評議員関連規定より抜粋

◆平成28年11月9日開催の理事会、及び10日開催の総会にて、学術評議員の更新制導入が決定し、関連定款施行細則及び内規が改定となりました。この件は次号にてご報告いたします。

## 〈定款〉

### （学術評議員）

第7条 正会員のうち、申請時点において病理研究歴満7年以上及び本会に入会後満5年以上の者は、学術評議員2名以上の推薦を得て、理事長に申請し、理事会及び総会の承認を得て学術評議員となることができる。

2 学術評議員は、本学会の教育、研究、病理診断に関わる事項について評議する。

3 学術評議員は、正会員としての資格を有するほか、以下の資格を持つ。

- (1) 学術評議員候補者を推薦することができる
- (2) 置委員会委員になる資格を持つ
- (3) 名誉会員・功労会員になる資格を持つ
- (4) その他の資格については別に定める

### 〈学術評議員内規〉

2. 学術評議員は、本学会の教育、研究、病理診断に関わる事項について評議するとともに、定款ならびにここに定める資格をもって、病理学の発展に貢献する責務を有する。

3. 学術評議員は、研究歴満7年以上および本会に入会後満5年以上で、以下の資格条件の1つをみたす正会員の中から、学術評議員2名以上の推薦を得て、理事長に申請し、資格審査を経て理事会及び総会の承認を得た者とする。

- 1) 病理学（学際分野を含む）に関する原著論文（英語論文）3編以上で、少なくとも1編の筆頭著者である者
  - 2) 病理専門医あるいは口腔病理専門医資格取得者で論文発表の筆頭著者1編以上である者
  - 3) 入会歴5年以上を満たさないが、傑出した業績を上げていると資格審査委員会で認めた者
4. 学術評議員は、常置委員会委員の被選出者資格をもつ。
5. 学術評議員は役員候補者の選出資格をもつ。
6. 学術評議員の任期は、2年以内とし再任を妨げない。但し、65歳に達した年度の3月31日を超えないものとする。
7. 学術評議員の任期更新は原則役員選挙実施年度4月1日付で行う。
- 1) 学術評議員の任期更新を希望するものは、定められた期間内に更新の申請を行い、理事会の承認を受ける。
  - 2) 任期更新がされなかった学術評議員は、次回更新申請が承認されるまで、その資格を停止する。

### 附則

1. この内規は、平成28年11月10日から施行する。ただし、平成29年4月1日付の任期更新については、その申請を要さない

## 別表（学術評議員の資格まとめ）

資格・権利	規定
学術評議員候補者の推薦	定款
常置委員会委員になる資格	定款・内規
名誉会員・功労会員になる資格	定款
役員候補者の選出資格	内規
宿題報告担当者となる資格	その他
病理診断特別講演の担当者／推薦者となる資格	その他
学術研究賞演説（A演説）の担当者／推薦者となる資格	その他
B演説の担当者／推薦者となる資格	その他
学術奨励賞の推薦資格	その他
新入会員の推薦	その他
剖検輯報のデータ検索依頼（有料）	その他

### その他：

1. 学術評議員は、「本学会の教育、研究、病理診断に関わる事項について評議するとともに、定款ならびにここに定める資格をもって、病理学の発展に貢献する責務を有する。」ものとなっています。こちらの主旨を充分ご理解の上、ご申請、ご推薦をお願いいたします。

2. 学術評議員のキーワード登録について

上記1.にともない、学術評議員には、専門分野・キーワードを学会に登録いただくことになっています。これらのデータは会員専用ページに掲載され、学術集会での座長選出や“Pathology International”の査読依頼など、学術交流のさらなる活発化のために役立てられています。

3. 学術評議員年会費について

平成26年度より、一般会員と同額（13,000円）に値下げとなりました。

病理学会では、年会費の口座自動振り替えのご利用を推進しています。まだご利用でない方は是非ご検討下さい。

4. お願い

本学会では「UMIN」（大学病院医療情報ネットワーク）のシステムにて、英文誌の閲覧や、MLの配信、病事情報ネットワークの利用などを行っています。学術評議員の推薦を受けられる際は今一度ご自身のIDとパスワードをご確認下さい。

### 3. 第63回（平成29年）日本病理学会秋期特別総会学術研究賞演説（A演説）、B演説について（公募のお知らせ）

平成29年秋開催予定の第63回日本病理学会秋期特別総会における学術研究賞演説（A演説）とB演説の募集をいたします。

これら演説の応募内容は、以下の要件を満たすことといたします。

学術研究賞演説（A演説）

- (1) 優れており、かつ蓄積された研究であること。

- (2) 原則として日本国内で行われた研究であること。
- (3) 内容に関する責任の明確な研究者による発表で、内容は共同研究によるものであっても発表者自身はそれを代表するものであること、従って単独名が望ましい。

## B 演説

- (1) 症例報告または症例の蓄積による解析。

学術研究賞演説 (A 演説)、B 演説担当者として講演することを希望する会員は、下記の要領でご応募ください。

参照 HP (AB 共通) :

<http://pathology.or.jp/news/gakujyutu/2017AB.html>

学術研究賞演説 (A 演説) の応募要領

(1) 応募資格: 日本病理学会員でありかつ学術評議員による推薦を受けた者。ただし、応募者自身が学術評議員である場合、自薦で可とする。

- (2) 提出書類: Word 形式 PDF 形式

・日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、応募者名、演題名、選考用抄録 (900 字以内) などを記載し、推薦学術評議員の自署・捺印を受けてください。ダウンロードできない場合は、日本病理学会事務局までご請求ください。

・講演内容に直接関係のある自著論文 20 編以内の一覧。  
・代表的な自著論文 5 編以内の別刷各 3 部 (コピー可)。

- (3) 提出先: 〒 113-0034 東京都文京区湯島 1-2-5

聖堂前ビル 7 階

一般社団法人日本病理学会事務局

「学術研究賞演説 (A 演説) 応募抄録」と表記し、簡易書留もしくはそれに準ずる形でお送り下さい。

- (4) 募集締切: 平成 29 年 1 月 31 日 (消印有効)

B 演説の応募要領

- (1) 応募資格: 学術研究賞演説 (A 演説) に同じ。

- (2) 提出書類: Word 形式 PDF 形式

・日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式に、応募者名、演題名、選考用抄録 (900 字以内) などを記載し、推薦学術評議員の自署・捺印を受けてください。ダウンロードできない場合は、日本病理学会事務局までご請求ください。

・講演内容に関係のある自著論文があればその一覧 (5 編以内)。

- (3) 提出先: 学術研究賞演説 (A 演説) に同じ。「B 演説応募抄録」と表記し、簡易書留もしくはそれに準ずる形でお送り下さい。

- (4) 募集締切: 学術研究賞演説 (A 演説) に同じ。

第 63 回日本病理学会秋期特別総会における学術研究賞演説 (A 演説)、B 演説担当者は、平成 29 年 3 月の学術委員会において厳正・公明に選考し、同日の理事会での審議

によって決定いたします。

本件についてご質問がありましたら、日本病理学会事務局または学術委員長までお問い合わせください。

日本病理学会事務局: TEL 03-6206-9070

学術委員長 (高橋雅英): TEL 052-744-2092

## 4. 平成 28 年度学術奨励賞受賞候補者の推薦について

日本病理学会学術委員会は、平成 28 年度学術奨励賞受賞候補者の推薦を以下のとおり募集いたします。

学術奨励賞は、病理学の基礎的研究あるいは診断業務の中で特に優れた学術的貢献を行った本学会若手会員に対して与えられる賞です。

受賞対象者は、年度末 (平成 29 年 3 月 31 日) において 3 年以上の会員歴を持つ 40 歳以下の会員です。

学術評議員各位には、下記の要領で候補者の推薦をお願いいたします。

推薦要領

1. 本年度は、数名への授与を予定しています。
2. 募集締切り期日は、平成 29 年 1 月 31 日 (当日消印有効) とします。
3. 候補者の推薦にあたっては、日本病理学会ホームページよりダウンロードした所定の書式をご利用の上、書留郵便等にて日本病理学会事務局までご送付ください。

ダウンロードできない場合には本学会事務局までご請求ください。

参照 HP:

<http://pathology.or.jp/news/whats/H28Incitement-award.html>

書式ダウンロード:

<http://pathology.or.jp/news/H28IncitementAward.docx>

4. 学術奨励賞受賞者 (受賞者) には、賞状と記念品が贈呈されます。
5. 賞の授与は、次年度の総会において理事長が行います。
6. 受賞者には、第 106 回東京総会で開催の英語セッション「学術奨励賞受賞講演」(平成 29 年 4 月、於京王プラザホテル) において英語で口演していただきます。
7. 上記 6 の優秀者は平成 30 年度英国病理学会ポスター発表派遣候補者 (本学会より渡航費補助金 15 万円支給) となります。

書類提出先

〒 113-0034 東京都文京区湯島 1-2-5

聖堂前ビル 7 階

一般社団法人日本病理学会事務局 学術奨励賞推薦受付係

TEL 03-6206-9070

※簡易書留もしくはそれに準ずる形でお送り下さい。

なお、本件について、ご質問などがありましたら、本学会事務局までお問い合わせください。

## 5. 平成 28 年度日本病理学会 100 周年記念病理学研究 新人賞公募について

2011 年（平成 23 年）に日本病理学会は創立 100 周年を迎えました。日本病理学会 100 周年記念事業実行委員会では、病理学の医学・医療における位置づけを再確認し、病理学会のあるべき姿と進むべき方向を、より多くの方々と語り合う機会として、創立 100 周年記念事業を行ってまいりました。さらに、これらの事業と東日本大震災への義援金に加えて、日本病理学会の発展に資するプロジェクトを募集し、2015 年までの 5 年間にわたって実施してまいりましたが、さらに 5 年間の継続が決定しています。「日本病理学会 100 周年記念病理学研究新人賞」は、「病理医・研究医の育成とリクルート委員会（旧・若手医師確保に関する委員会）」が応募し、採用された公募プロジェクトです。

本プロジェクトの概要：

将来的に日本の病理学がバランスよく発展していくためには、臨床側面である病理診断だけでなく、その基盤となる病理学研究も強力に推進する必要がある。ところが昨今の若手医師の研究指向者の激減は憂慮すべき問題である。この問題を少しでも解決するべく、2011 年から 5 年間に渡り、病理学研究新人賞を設定し、若手医師の大学院生を鼓舞することとした。なお、さらに 5 年間の継続が決定している。選考は書面による 1 次審査（8 名以内）と春期の病理学会総会時において口頭発表による 2 次審査を行い、5 名を選出する。春期の日本病理学会総会で表彰し、賞金 10 万円を付与する。

平成 28 年度日本病理学会 100 周年記念病理学研究新人賞公募について下記の要領で候補者を公募します。

対象：

以下のすべての要件を満たす者を本賞応募の対象者とする。

- 1) 日本の大学の医学部・歯学部大学院病理学教室（あるいはそれに相当する教室）博士課程に所属する学生であること（応募時）。
- 2) 応募翌年度の 4 月 1 日において、35 歳以下であること。（2 月 1 日メ切）  
（平成 28 年度対象者：昭和 56 年 4 月 2 日以降生まれ）
- 3) 日本の医師免許あるいは歯科医師免許を有する者。ただし、日本の大学の MD/PhD コースの学生で博士課程に所属する者は応募可能とする。
- 4) 1 年間以上、日本病理学会の会員である者。

提出書類：

すべて A4 の大きさの紙媒体で提出のこと。

- 1) 履歴書（高校卒業以降、生年月日・連絡先を含めること）

- 2) 業績録（著者名をすべて記載し、代表論文 3 編までに関して、要旨を含む第 1 ページのコピー 1 枚ずつを提出）
- 3) 本人自身の研究業績の要約（1 枚、必ずタイトルをつけること、このタイトルで 2 次審査の発表をしていただきます）
- 4) 所属講座の教授（あるいは指導教官）の推薦書（1 枚）
- 5) 大学院在籍証明書（コピー可）
- 6) 医師免許証のコピー（MD/PhD コースの学生は不要）
- 7) 受賞した場合、受賞後 2 年以内に本学会学会誌 Pathology International へ投稿を行うという誓約書（形式自由；原著あるいは総説で共著可）。

※なお、受賞後、応募時提出内容に虚偽があることが判明した場合、後日審議の上、受賞の取り消しならびに賞金の返還を求めることがある。

参照 HP：

<http://pathology.or.jp/jigyou/100syuunen/H28rookie-award.html>

提出先：

簡易書留もしくはそれに準ずる形で送付のこと

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-2-5 聖堂前ビル 7 階  
一般社団法人日本病理学会 病理学研究新人賞受付係

E-mail: [jsp-admin@umin.ac.jp](mailto:jsp-admin@umin.ac.jp)

TEL: 03-6206-9070

締切：平成 29 年 2 月 1 日必着

選考予定：

1 次審査の結果は、平成 29 年 2 月末日までに郵送で連絡する。今年度の 2 次審査は、平成 29 年 4 月 27 日（木曜日）に第 106 回日本病理学会総会（東京都）において実施する（発表 10 分、質疑 5 分の予定）。2 次審査は公開とし、そのプログラムはウェブで告知する。なお、2 次審査参加のための交通費・宿泊費ならびに総会参加費は各自の負担とする。

## 6. 「診断病理」編集長の公募について

「診断病理」現編集長の任期満了にともない、平成 29 年度以降の編集長を下記の要領により募集いたします。応募、または推薦の書面を病理学会事務局までお送り下さい。

応募要領：

1. 応募は自薦、他薦を問わないこと。
2. 応募者は、病理専門医である日本病理学会会員であること。
3. 応募者が自薦の場合は、氏名、所属機関、応募の要旨を、また他薦の場合は、推薦する候補者を加えて、記載した書面（書式は自由）に自筆署名し、郵送にて提出すること。
4. 任期は、平成 29 年 4 月 1 日より 5 年とすること。再任以降の任期は 2 年とすること。

5. 締め切りは、平成 28 年 12 月 26 日（消印有効）とすること。

提出先：

〒 113-0034 東京都文京区湯島 1-2-5 聖堂前ビル 7 階  
日本病理学会事務局  
TEL 03-6206-9070

#### 7. 剖検データ登録に関するご案内（追加公開）

標記の件につき新たな参考資料を公開しましたので、ご参照下さい。2015 年データの提出締切は 12 月 1 日（木）です。

(1) 剖検情報の NCD 登録について

参照 HP:

<http://pathology.or.jp/news/2015autopsy-1.pdf>

(2) 2015 年分 剖検データが 0 の施設へ

参照 HP:

<http://pathology.or.jp/news/2015autopsy-2.pdf>

#### 8. 2017 年細胞診講習会のお知らせ

2017 年の細胞診講習会（一般社団法人病理学会、担当：病理専門医制度運営委員会）を開催いたします。

病理専門医及び口腔病理専門医（平成 24 年度以降に口腔病理研修を開始された方）受験資格の要件のひとつとして細胞診に関する講習会を受講していることがあげられております。

2017 年以降受験予定の方でまだ細胞診講習会を受講されていない方は、この講習会を受講して下さい。受講希望者は、本学会ホームページの細胞診講習会受講申込サイトよりお申し込み下さい。定員（90 名）を越える場合は下記 6 に示す基準に従って選定させていただきます。なお、2017 年の病理学会主催の細胞診講習会は今回 1 回のみです。

1. 日時：

2017 年

2 月 11 日（土）9 時 30 分から 16 時 50 分

（第 1 日：受付、講義、実習、質疑）

2 月 12 日（日）8 時 30 分から 15 時 30 分

（第 2 日：講義、実習、質疑）

2. 講師：

若狭 朋子（近畿大学）

河原 邦光（大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター）

星田 義彦（国立病院機構大阪南医療センター）

南口早智子（京都大学）

安岡 弘直（大阪けいさつ病院）

廣川 満良（隈病院）

棟方 哲（堺市立総合医療センター）

村田 晋一（和歌山県立医科大学）

井上 健（大阪市立総合医療センター）

福島 裕子（大阪市立総合医療センター）

3. 会場：

大阪市立大学医学部

4 階中講義室 1 および 5 階組織実習室

大阪市阿倍野区旭町 1-4-3

世話人：

大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学・病理診断科 森井英一

実施責任者：

大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学・病理診断科 和田直樹

4. 受講料：

33,000 円（ハンドアウト・CD-ROM・昼食代込み）

採用通知とともに振替用紙をお送りします

（12 月末～1 月上旬頃）

5. 申込締切：

2016 年 12 月 12 日（月）

6. 受講者の選定基準：

① 2017 年病理専門医試験を受験する方

（研修登録をされていない方は申し込めません）

② 2018 年以降に病理専門医試験を受験する方

\*①、② の本講習会受講経験のない方を優先いたします（定員 90 名）

7. 申し込み：

2017 年細胞診講習会参加 申し込みサイト

8. 問い合わせ先：

日本病理学会事務局 [jsp-admin@umin.ac.jp](mailto:jsp-admin@umin.ac.jp)

※参考：病理専門医試験申請要綱注意事項より抜粋

(b) 細胞診に関する講習について

細胞診に関する講習とは、医師を対象とし全域を網羅したものであることが要件であり、現時点では日本病理学会主催による「細胞診講習会」および日本臨床細胞学会による「細胞診断学セミナー」のみが該当します。細胞診専門医は受講不要です（認定証写しを添付して下さい）。

9. 一般向けパンフレット「教えて！病理のはなし」を作成しました

標記パンフレットを作成いたしました。PDF 版がダウンロードできますので、院内での啓発活動等にお役立ていただければ幸いです。印刷パンフレット版のご要望がありましたら、病理学会事務局までご相談下さい。

参照 HP：<http://pathology.or.jp/ippan/oshiete.html>

#### 10. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

原田 喜男 功労会員（平成 28 年 10 月 1 日ご逝去）

栗沢 靖之 功労会員（平成 28 年 10 月 24 日ご逝去）

菅野 晴夫 名誉会員（平成 28 年 10 月 30 日ご逝去）

## お知らせ

### 1. 平成 28 年度乳幼児突然死症候群 (SIDS) 対策強化 月間実施について

11 月 1 日 (火) から 30 日 (水) までは標記強化月間です。  
詳細は以下厚生労働省ホームページご参照ください。  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000140459.html>

### 2. 日中医学協会 2017 年度「共同研究等助成金」「若手 在留中国人研究者助成金」募集

募 集 期 間：平成 29 年 1 月 13 日まで  
詳 細： <http://www.jpncma.or.jp/>  
問 い 合 わ せ：公益財団法人日中医学協会  
電 話：03-5829-9123 FAX：03-3866-9080  
E-mail： [jyosei@jpncma.or.jp](mailto:jyosei@jpncma.or.jp)

### 3. Minds フォーラム 2017 「患者・市民のための診療 ガイドライン」

日 時：2017 年 1 月 28 日 (土) 13:00~17:00  
会 場：日本医師会館大講堂 (東京都文京区駒込 2-28-  
16)  
主 催：公益財団法人 日本医療機能評価機構  
参加費：無料  
詳細・申し込み：  
[http://minds4.jcqh.or.jp/resource/event.html#ev\\_for](http://minds4.jcqh.or.jp/resource/event.html#ev_for)

# 日本医学会だより

JAMS News

2016年10月 No.56  
日本医学会

## ◆日本医学会公開フォーラム

第21回日本医学会公開フォーラムは「乳がん—最新情報を知ろう—」をテーマに、12月24日(土)13:00~16:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員長は、中村清吾 昭和大学医学部乳腺外科教授。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会HP (<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

## ◆日本医学会シンポジウム

第150回シンポジウムは「肥満症」をテーマに、12月15日(木)13:00~17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、春日雅人、門脇孝の各氏。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会HP (<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

## ◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月2日(金)に開催し、平成28年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞17、奨励賞34を審査した。

選考の結果、11月1日(火)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・2光子イメージングと光操作法による大脳シナプスの研究/河西春郎(東大疾患生命工学センター)
- ・日本における循環器疾患治療のエビデンス/小川久雄(国立循環器病研究センター)
- ・重症心不全に対する世界初の心筋再生医療製品「ハートシート」の開発/澤芳樹(阪大・心臓血管外科学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・遺伝統計学による新しい疾患ゲノム創薬の枠組みの構築/岡田随象(阪大・遺伝統計学)
- ・交感神経による適応免疫応答の概日リズム形成機構/鈴木一博(阪大免疫学フロンティア研究センター)
- ・大腸がん幹細胞の機能的な同定と新しい治療法開発/佐藤俊朗(慶大・消化器内科学)
- ・メタボリックシンドロームの病態形成における臓器間神経ネットワークの意義の解明と治療応用法の開発/宇野健司(東北大・糖尿病代謝内科学)
- ・HMG-CoA還元酵素阻害薬による移植心の冠動脈内膜肥厚抑制効果の解析/内山雅照(帝京大・循環器外科学)
- ・電算化データを用いた認知症・生活習慣病判定のアルゴリズム開発とダイナミックコホート研究への応用/山岸良匡(筑波大・公衆衛生学・生活習慣病予防・疫学)
- ・血管内皮の恒常性維持機構破綻がもたらす臓器線維化機構の解明/金崎啓造(金沢医大・糖尿病内分泌内科学)

- ・蛋白凝集に焦点を当てたアルツハイマー病の病態解明と予防・治療薬開発/小野賢二郎(昭和大・神経内科学)
- ・CDC42 変異により発症する新規疾患 Take-nouchi-Kosaki 症候群の病態解明/武内俊樹(慶大・小児科学)
- ・胃癌腹膜播種に対する特異的分子標的治療薬及びコンパニオン診断法の開発/神田光郎(名大・消化器外科学)
- ・難治性四肢潰瘍患者を対象とした新世代型血管・組織再生治療の開発/田中里佳(順天堂大・形成外科学)
- ・婦人科がんにおけるがん免疫逃避機構の解明と新規治療法の開発/濱西潤三(京大・産婦人科学)
- ・副腎性クッシング症候群における新規腫瘍マーカーの臨床応用/前川滋克(東大・泌尿器科学)
- ・精子幹細胞の分化メカニズムの解明と男性不妊症治療への臨床応用/水野健太郎(名市大・腎・泌尿器科学)
- ・緑内障の房水に含まれるサイトカイン可溶性受容体が緑内障病態および緑内障手術成績に与える影響の検討/井上俊洋(熊本大・眼科学)

#### ◆日本医学雑誌編集者組織委員会

第18回日本医学雑誌編集者組織委員会を8月31日(水)に開催した。

当日の議題は、(1)一般社団法人学術著作権協会の活動、(2)第8回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第8回シンポジウム、(3)アジア太平洋地域医学雑誌編集者会議APAME2016(バンコク)報告、(4)医学雑誌編集ガイドライン、(5)日本医学会利益相反委員会活動報告、等である。

黒川 恵学術著作権協会事務局長並びに金山伴子学術著作権協会事務局総務担当より、一般

社団法人学術著作権協会の詳細な活動報告が行われたほか、余頃祐介科学技術振興機構(JST)知識基盤情報部研究成果情報グループ主査より、JaLCにおけるDOI登録の概要とオープンサイエンスへの対応状況等についての説明がなされた。

また、平成29年に開催予定の第8回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第8回シンポジウムのプログラム案についても、意見交換を行った。

その他、8月26日(金)～8月28日(日)に開催されたアジア太平洋地域医学雑誌編集者会議APAME2016(バンコク)の報告が行われた後、曾根三郎日本医学会利益相反委員会委員長より、日本医学会利益相反委員会活動報告として、「日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス」の作成と「日本医学会 医学研究のCOIマネジメントに関するガイドライン」の改定等について、進捗状況の説明がなされた。

#### ◆移植関係学会合同委員会

第34回委員会は審査の迅速化をはかるため、委員会を開催せず持ち回り開催とした。審議事項は移植実施施設の認定で、以下の施設が新たに認定された。

肝臓移植実施施設：福島県立医科大学

膵臓移植実施施設：長崎大学大学院 移植・消化器外科

#### ◆医学用語管理委員会

第16回委員会を9月29日(木)に開催した。主な議題は平成28年度日本医学会分科会用語委員会について等である。分科会用語委員会は12月5日(月)15:00～17:00、日本医師会館小講堂で開催することが決定した。ICD-11について、厚生労働省ICD室の方から講演をいただくほか、5演題を予定している。